

授業と評価の年間計画

教科	公民	科目	政治・経済	
履修条件 対象生徒	選択 普通科（文型） 3年			
学習目標	1 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深める。 2 現代における各分野の諸課題について客観的に理解し、主体的に考察するとともに、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。			
学習方法	授業では、板書事項をただ漫然と写すのではなく、補足説明事項や興味・関心をもった項目をノート等に整理し発展させる。各項目が単なる知識の羅列とならず、相互に関連付け、目的意識をもって授業に臨むこと。 家庭学習では、教科書の授業範囲を読み、用語を事前に確認するとともに、大まかな流れを把握しておく。疑問点を明確にさせて授業に臨み、その疑問を授業で解決するようなスタイルを身に付けてほしい。			
学習計画 と ねらい	1 1学期 (1) 中間検査まで ア 現代経済のしくみと特質 (2) 期末検査まで ア 現代経済のしくみと特質 ア 中小企業・農業・消費者問題 イ 労働問題・社会保障制度の充実 イ 国民経済と国際経済 ア 国際経済のしくみ イ 地域的経済統合、南北問題		<ul style="list-style-type: none"> ・経済思想、市場経済の仕組みを学習することによって、経済の基礎的事項を理解する。 ・市場経済、財政、金融の仕組みを学習することによって、経済活動の基礎的事項を理解する。 ・外国為替や国際貿易等を総合的に学習することによって、グローバルな視野に立って物事を考察できる能力を身に付ける。 	
	2 2学期 (1) 中間検査まで ア 民主政治の基本原則と日本国憲法 ア 政治と法の機能、法の支配 イ 世界の政治体制 ウ 日本国憲法の基本原則 エ 基本的人権の保障 (2) 期末検査まで ア 民主政治の基本原則と日本国憲法 ア 国会、内閣、裁判所の機能 イ 地方自治制度、選挙制度 イ 現代の国際政治と日本 ア 国際社会と国際法 イ 国際政治の動向 ウ 国際紛争と難民問題 エ 軍備管理と軍縮		<ul style="list-style-type: none"> ・政治とは何か、法の支配とは何かなどを考え、近代民主政治はどのように発展してきたのかを学習する。また、それらを学習することによって、民主主義のもつ意味について考察を深める。 ・日本国憲法の成立過程や基本原則を学習することによって、民主政治の在り方や私たちと政治の関わり方を考える。 ・日本国憲法の基本原則を学習することによって、現代の政治の特徴や問題点等を主体的に考察する態度を身に付ける。 ・国家とは何か、国際政治とは何かという観点で学習を進めることによって、世界の中の日本の地位と役割を考える。 	
	3 3学期 (1) 学年末まで ア 現代日本の政治や経済の諸課題 イ 国際社会の政治や経済の諸課題		<ul style="list-style-type: none"> ・雇用問題、民族・人種問題、軍縮問題等を学習することによって、現代日本や国際社会における諸問題解決への方策を考察する。 	
評価基準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	現代の政治、経済、社会、国際関係などに関心をもち、意欲的に探究しようとしているか。 社会の一員として、民主的な社会生活の実現と推進をはかるため参加、協力する態度を身につけているか。	現代の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる諸課題を考察し、広い視野に立って多面的、多角的に考察しているか。 社会の変化やさまざまな立場、考え方があつたことを理解し、公正に判断しているか。	現代の政治、経済、社会、国際関係などにかかわる事柄に関する諸資料を収集し、適切に選択・活用することができるか。 得られた資料や情報を効果的に活用し、諸問題を探究する学び方を身につけているか。	現代の政治、経済、社会、国際関係にかかわる基本的な事項や課題について体系的、総合的に理解し、その知識を身につけているか。
評価方法	定期考査の成績を重視するが、授業における課題等の提出状況や授業態度も含めて、総合的に判断して評価する。			
その他	学習進度は状況によって若干違ってくる場合もある。また、政治・経済など日々の社会の動きに対して常に興味・関心をもつこと。新聞の一面記事の項目や社説に目を通し、現代の政治・経済の動きを大まかに捉えるようにしたい。こうした積み重ねが知識の幅を広げ、受験等に際して小論文が必要になった時にも役立つ。			